



特集

Feature Article

台頭するブラジル

特集にあたって

ブラジルが BRICs の一角に挙げられたのは 2001 年だが、当初は「なぜブラジルが選ばれるのか？」という声も多く聞かれた。“失われた 1980 年代” やハイパー・インフレといった負の記憶が人々の間に根強く、筆者も含め“ブラジルの奇跡” を知らない世代も増え、地理的にも遠い日本では特に、このような見方が大半だったといえよう。しかしその後ブラジルは、カルドゾからルーラ、そして同国初の女性大統領ジルマへと民主的な政権交代を果たし、

2009 年には南米初のオリンピック開催国に選ばれ、2010 年には GDP 成長率が 7.5% に達するなど、世界における存在感を増大させてきた。1940 年にツヴァイクに『未来の国』と著されたブラジルは、幾重もの紆余曲折を経た後、最近ようやくその未来が到来したと評されるまでに変貌を遂げた。本号ではこのようなブラジルを特集し、台頭する国家としての新しさ、大産油国への変化を可能にするプレソルト、成長を遂げる北東部の雇用に関する 3 つの論稿を掲載する。

(近田 亮平)